

日台連携を通じて 研削盤の海外生産を強化する和井田製作所

和井田友嘉精機股份有限公司は、工作機械メーカーの和井田製作所、友嘉実業集団、シチズンマシナリーミヤノ、商社の丸紅の4社合併会社として2012年に台中で設立された。和井田製作所の製造するハイエンドCNC研削盤のモジュールの生産だけでなく、他の工作機械メーカーへのモジュール提供も行っている。今回は、和井田友嘉精機の呉総経理を訪ね、台湾拠点設立から現在までの取り組みと今後の事業展望についてお話を伺った。



和井田友嘉精機(股)有限公司
呉團焜総経理(左)、川村良一顧問(右)

一 貴社の事業内容と台湾進出の経緯

和井田製作所(以下、当社)は、岐阜県に本社を構える研削盤メーカーです。当社の主力製品は、金型関連研削盤、切削工具関連の研削盤です。当社製品の一つである金型関連研削盤には、CNC成形研削盤とCNCジグ研削盤の2種類の製品があります。当社の金型関連研削盤は、研削加工に対する徹底した追求と高い操作性で、日本及び海外で高いシェアを確立しています。また、切削工具関連研削盤も同じく主力製品であり、主にCNC刃先交換チップ研削盤とCNC軸付工具研削盤の2種類を製造しています。

工作機械の中でも比較的ニッチな製品を取り扱っており、国内市場だけでは事業規模拡大に限界があるため、早くから製品の海外輸出を行ってきました。そんな中で、今後更なる海外展開を行うにあたり、製品のコスト競争力の強化や販売チャネルの拡大が課題となっており、海外企業と連携し海外生産拠点を設けることが必要だと考えました。

そこで、2011年頃から海外に生産拠点を設けることを目的とし、パートナー企業を探していました。元々は、精密研削技術を持つ中規模の地場企業を買収することを検討していましたが、初期投資が比較的安く抑えられる、合併の形態を選択しました。当社が合併先として選んだ友嘉実業集団(以下、友嘉実業)は、日本企業との連携を数多く実施しており、日本企業の厳しい技術要求に対しても深い理解を示して頂きました。現在は、友嘉の工場の一部を借りて専用の生産ラインを設けています。工場に対する初期投資は必要ありませんでした。

一 進出形態について

2012年3月27日に和井田友嘉精機(股)有限公司(以下、和井田友嘉)を設立し、2012年の5月から正式に営業を開始しました。台湾企業と日本企業との連携において、連携時に双方が求める役割が明確になっていることが非常に重要です。友嘉実業は当社の技術力が習得できる点、当社は短期的には既存製品のコストダウンと販売拡大、中長期的にはミドルエンド製品の商品化と生産という明確な目標があります。

合併会社の設立にあたっては、当社と友嘉実業の他にも、和井田友嘉を通じた部品調達にメリットが見込めたシチズンマシナリーミヤノ社と丸紅社の2社からも5%の出資を受け入れ、4社による合併で事業を開始しました。前述通り、当社は少量多品種且つ比較的ニッチな製品を生産していることもあり、一年間の生産量には限りがあります。そんな中で、シチズンマシナリーミヤノ社や丸紅社と共同で部品調達することで調達コストを更に下げることに成功しています。

シチズンマシナリーミヤノ社と丸紅社の両社は、和井田友嘉設立後の二年間で一定の役割を終えたため、当社がこの二社から株式を買取り、当社のメジャー出資(55%)で2社合併の形態となっています。

一 台湾拠点の位置付けについて

台湾では、日本で生産しているCNC研削盤に使うモジュールの製造・販売を行っています。現時点では、完成機の組立までは行っていませんが、早い時期に完成機の台湾生産が出

日本企業から見た台湾

来るよう取り組んでいます。海外拠点でも日本と変わらぬ品質の製品生産を求め、重要部品は日本からの輸入で対応し、その他汎用部品の調達や組立の部分で友嘉実業のコストダウン力を存分に生かす体制を目指しています。

当社は、台湾拠点でも日本生産拠点で行っている工程はスキップせず、品質が変わらないレベルで提供できるよう指導を行っています。コストダウンについては、当初の目標を達成するまでには依然として努力が必要ですが、今後台湾人エンジニアの技術力が向上することで、コストダウンは進んでいくと考えています。

台湾の強みと課題について

台湾に拠点を設ける理由は様々ですが、当社の場合、台湾の産業クラスターを活用した部品調達の利便性と合弁先の持つ中国への販売チャンネルが魅力です。台湾の台中には、部品・モジュールのクラスターが存在し、半径30km以内のエリアから工作機械の部品・モジュールをすべて調達することができます。また、日本から中国に完成機を輸出する際には、中国への輸入許可に時間がかかる等の障害がある場合がありますが、台湾と中国は政治的にも良好な関係を保っており、中台間での輸出入の問題はほとんどないと考えられます。

一方で、台湾の課題として、特殊な加工技術の不足が挙げられます。例えば、ラップ加工(平面、円筒、円形の金属の内側の面粗度を1~3μmにする加工)など工作機械の精度を決めるような特殊な加工については、依然として日本と比べ見劣りします。きさげ加工については、台湾企業と外資企業の長年の連携の歴史から、一定の技術力を有するまでになっていますが、当社が日本の工場で熟練工を抱えて行っているラップ加工となると話は別になります。

今後の事業展望について

和井田友嘉の今後の事業については、2つの方向性を考えています。まずは、台湾拠点の製品ラインアップの拡大です。現在は日本の安全保障貿易管理制度に抵触しない非該当機のみをモジュール生産を行っていますが、今後はその非該当機の完成組立が出来る拠点にしていきます。現時点では台湾拠点

で生産したモジュールを日本に送った後、日本で組立を行い輸出していますが、輸送コストや日中関係の変化による輸出への影響を考えると、台湾から直接輸出するメリットは多いと考えています。また、日本でのみ生産している該当機についてもコストダウンの必要性が強まっており、一部の汎用部品(非該当部品)については和井田友嘉で生産を行い日本へ納入を行っていきたくと考えています。

次に、自社生産工場の設立です。現時点では、友嘉実業の工場内に和井田友嘉のラインを別途設けて生産していますが、将来的に台湾事業が軌道に乗ってきた後には、自社工場を持つことも検討しています。

このように、技術力の向上や生産機能の拡大により、台湾拠点の強化を図り、最終的には台湾拠点で新興国市場のニーズを反映した戦略的製品ライン(セカンドブランド)の確立が出来ればと考えています。

ありがとうございました。

和井田友嘉精機(股)有限公司の基本データ

会社名	和井田友嘉精機股份有限公司
董事長	久保朝義
設立	2012年3月
資本金	4,000万元
従業員	9名(内、日本人1名)
事業内容	工作機械(研削盤)用モジュールの製造、販売

注)2014年9月時点のデータによる
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理